

(報道発表資料)

西日本電信電話株式会社 静岡支店

～総務省「G空間シティ構築事業^{※1}」(静岡市フィールド)～
「リアルタイム津波浸水・被害予測・災害情報配信による自治体の減災力強化の実証事業」の
実証実験について

西日本電信電話株式会社 静岡支店(支店長:相浦 司、以下、NTT西日本 静岡支店)は、総務省が実施する「G空間シティ構築事業」の委託事業として、東北大学災害科学国際研究所(責任者:越村俊一教授)が提案し採択された「リアルタイム津波浸水・被害予測・災害情報配信による自治体の減災力強化の実証事業」のコンソーシアムの構成員として、実証地域の1つである静岡市と協力し準天頂衛星^{※2}等を活用した多層的な情報伝達の実証を行います。

準天頂衛星を活用した自治体からの多層的な災害情報の配信は、全国初の試みとなります。

※1 「G空間(地理空間)シティ構築事業」について:

G空間情報のICTによる利活用を促進し、経済の成長力の底上げ及び国土の強靭化を図るため、「G空間×ICT推進会議」報告書を受け、「世界最先端のG空間防災モデルの確立」及び「先進的・先導的なG空間利活用モデルの確立」について総務省の委託事業として実施するものです。

詳細は、『http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/02ryutsu06_03000054.html』をご参照願います。

※2 「準天頂衛星」について:

常に日本の真上に近い位置に配置され、より正確な位置情報にまつわる電波を発信することができる衛星です。天頂とは、日本の真上のことを指しますが、「準」がつくのは、常に1機が真上にいるというわけではなく、3機の衛星が8時間交代で日本上空(天頂付近)を滞留するようにするためです。但し、現在は1機のみです。

詳細は、『<http://www.jaxa.jp/countdown/f18/index.j.html>』をご参照願います。

1. 実証内容 (別紙1 『G空間シティ構築事業概要(静岡市フィールド)』をご参照願います。)

NTT西日本 静岡支店が構築した「準天頂衛星メッセージ作成機能」及び「受信アプリケーション」を活用し、準天頂衛星メッセージ等をトリガーに災害情報をスマートフォンアプリや Wi-Fi 端末、デジタルサイネージ等へ多層的に伝達することにより、地域住民や土地勘のない来訪者等に対する安心安全な避難行動への有効性を実証します。

2. 実証のポイント

(1) 災害情報の伝達時間

準天頂衛星を活用した自治体からの災害情報メッセージの伝達時間の確認

(2) 多層的な情報伝達の有効性

準天頂衛星、Wi-Fi、デジタルサイネージを活用した避難行動支援の有効性の確認

※静岡市、静岡県立大学のご協力により、三保松原周辺にて地域住民や観光に来た土地勘のない来訪者を想定し、地震発生による津波が発生したとの仮定のもと避難行動を実施いただきます。

3. 開催日時

2015年1月16日(金) 9:00～16:00

スケジュール	9:00 ～	(実証実験準備)
	10:00 ～	実証1回目
	12:00 ～	(2回目準備)
	13:00 ～	実証2回目

4. 実施場所

三保松原、はごろも情報ひろば『みほナビ』 静岡市清水区三保 1338-47
(別紙2『実施場所』をご参照願います。)

以上

ニュースリリースに掲載されている内容は、報道発表時のものです。
最新の情報と内容が異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

別紙1 G空間シティ構築事業概要(静岡市フィールド)

事業概要

地域住民や土地勘のない来訪者等でも安心安全に避難行動を行えるようにするため、準天頂衛星メッセージ作成機能及び受信アプリケーションの構築を行い、準天頂衛星メッセージ等をトリガーに災害情報をスマートフォンアプリやWi-Fi端末、サイネージ等多層的に伝達する手段の有効性を実証する。また、準天頂衛星メッセージ作成及び利用に関する課題・要件等の整理や多層的な避難行動支援情報伝達モデルなどの検討を実施する。

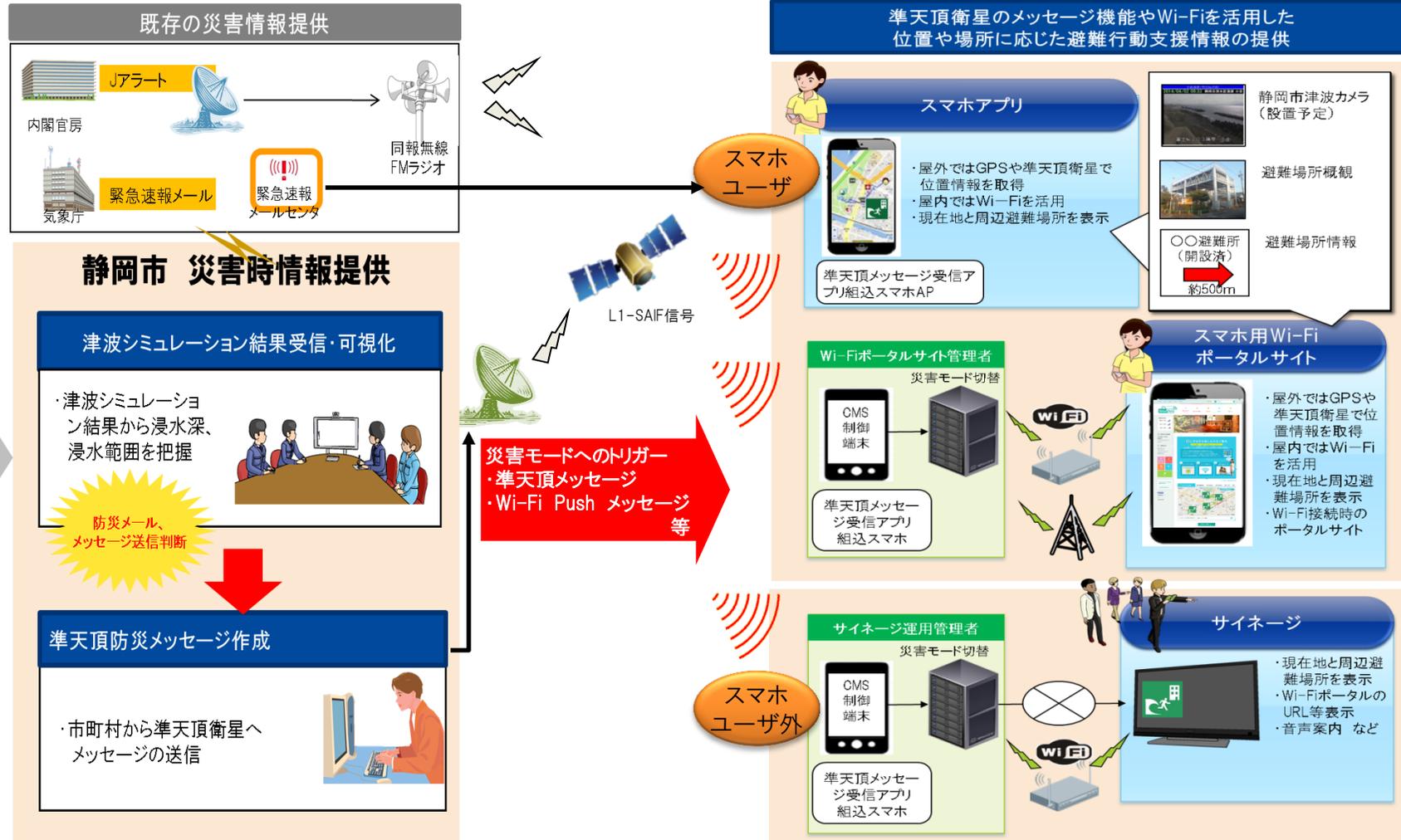


図 実証イメージ

別紙2 実施場所

